

BB通信

2月vol.16



気候がようやく春らしくなってきました。春の大会ではなかなかパフォーマンスが発揮できなかった選手たちも、身体が徐々に動いてきます。中学時代に勝った負けたという結果は、いい思い出にはなりますが、彼らのこれからの人生を決定してしまうものではありません。彼らの可能性あふれる将来を見据えた上で、今何をすべきかを考え、私たち指導者はそれぞれの選手をサポートし続けていきます。

「僕の出番はいつですか!？」

コーチ 岩井 健一

2月には、小学部と中学部で公式戦のベンチから試合を見る機会がありました。そこで見たのは、公式戦という緊張感のある雰囲気の中でも、本当に楽しそうに野球をする選手の表情でした。それを見ているのが、コーチをしていて一番楽しい時間でもあります。

ベンチでの選手の発言を聞いていると、

「僕の出番はいつですか!？」

「僕、いつでもいけますよ!!」

といった選手の発言を聞く機会もありました。私は、そういった選手の発言を聞くのが大好きです。

私が野球をしていた頃もそうですが、特に日本のスポーツは、「選手が主役」ではなく、「指導者が主役」とも取れる指導者の選手の接し方が多いように感じています。「ああしろこうしろ」、「それはしてはいけない」などの指導者から選手への発言が目立ちます。指導者が作り出すそんな雰囲気の中で、選手は言いたいこと、やりたいことができなくなっていく。そして、大好きだった野球がいつの間にか嫌いになってしまったり…。

野球を続けていく中で何か壁にぶつかった時、それに対応できるかどうかは、「野球がどれだけ好きか」ということはとても大きな要素です。「好きこそもの上手なれ」という言葉がありますが、好きなことだからこそ、何があってもくじけないう、努力と工夫を継続できるのであり、それが上達と人間的成長につながっていくのだと思います。それは野球以外のことでも同じことが言えるのではないのでしょうか。

選手の様子を見ている限り、日々の練習や試合の中でどんどん野球を好きになってくれることが伝わってきます。「これだけいい顔をして大好きな野球を楽しめていれば、たいいていのことは自力で乗り越えていってくれるだろうな」と感じています。指導者の勝手な思いで、選手が野球を嫌いになってしまっは元も子もありません。これからも、選手にどんどん野球を好きになってもらって、野球を通じて、人間的にも技術的にも大きく育っていってくれるようにサポートを続けていきます。

「スポーツマンシップ」

コーチ 土井 幹大

三月末から春の選抜高等学校野球大会が開催されます。

最近の高校野球(甲子園)ではスポーツマンシップという言葉をおぼれているのでは?と思わされることが何度もあります。

そもそも、スポーツマンシップとはスポーツをすること自体を楽しみとし、公正なプレーを尊重し、相手の選手に対する尊敬や賞賛をすることとなっています。

なぜ、スポーツマンシップをおぼれているのでは?と思うかと言うと、例えば、バッターが打席に入った時に横目でキャッチャーの構えている場所を確認し、来るコースがわかっているのでフルスイングしてヒットを打ったり、セカンドランナーがキャッチャーのサインと構えている場所を見てバッターにサインを出して教えたりしている場面をよくテレビ中継などで目にするからです。

これは選手宣誓などで誓うスポーツマンシップとかけ離れている行為ではないかと思ってしまう。

私も高校時代はキャッチャーをしていたのでバッターと目があつたり、セカンドランナーがサインを出しているなと感じたりしていました。でも、プレー中はこのようなことが当たり前すぎて、そうされないような工夫しかしませんでした。

しかし、これは反則ではないにしろ勝負以上に大切なスポーツマンシップからはかけ離れていると思います。

なので、ビッグの選手たちには正々堂々と野球を楽しみ、相手を敬う心も忘れず楽しくプレーして欲しいと思っています。勝つことだけが全てではなく、このような道徳心も野球技術の習得と同様に学んでいって欲しいと考えています。